

## 陳情第10号

令和2年8月17日

国立市議会議長 石井 伸之 様

### 国や都に対して小中高校等における少人数学級の早期実現の「意見書」提出を求める 陳情

#### 陳情の趣旨

新型コロナウイルス対策として小中高校等が3月2日から臨時休校に入り、5月25日に緊急事態宣言が解除され、自治体によって差はあるものの、5月末頃から分散登校や分散授業が始まり、段階的に全員が登校する通常授業に戻りました。

学校現場では臨時休校前とは違い、新型コロナ予防策として今までない業務が加わり、消毒作業や検温などで多忙と混乱が広がりました。一方、分散登校や分散授業による少人数クラスは3密回避になっただけでなく、授業や生活指導において教職員が、子どもたち一人ひとりの声が良く聞こえ、丁寧に向き合えることができるようになったという意見も寄せられました。

給食は、6月以降、手洗いの徹底、会話の制限、配膳する人の限定、換気の実施等の感染対策を厳密に行いながらの全面的再開となりました。給食は子どもたちの健やかな育ちを支える重要な側面を持つ一方、感染リスクが高い活動と言えます。コロナ禍以前であっても、給食時間はともすれば授業時間が優先されて、15～20分くらいの短時間しか確保できていないのが現状です。そのような中で多人数の子どもたちへの感染予防のために、教職員たちの過大な負担が増しています。食育基本法の前文で、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも『食』が重要である」と謳われているにもかかわらず、現

状は厳しいものです。今回のコロナ禍では、学校給食の有用性があらためて評価されました。貧困家庭の子どもが7人に1人と言われる現在、給食は「教育政策、貧困政策、災害対策、健康政策(以下略)」(藤原辰史『給食の歴史』)としての役割が、今後ますます重視されていくと考えられます。少人数学級が子どもたち一人ひとりに丁寧に向き合えたように、給食の時間においても少人数であれば、コロナ禍以前に戻ることは不可能でも、教育の一環としてのきめ細やかな食教育を行うことが可能になるでしょう。

国立市内小学校3年生児童は、1学期は「給食のときに話さずに食べたりちょっとさみしかったけど、ちゃんと授業ができたから楽しかった」、「2学期には友達の家で集まったり給食で友達と机をくっつけて話したりしたい」と語っています。(東京新聞8月1日朝刊多摩武蔵野版)

日本の教育が抱える諸問題、「教員の過剰労働」「詰め込み教育」とともに、国際的にも多すぎる1クラス定員などが、今回のコロナ禍で問題点を浮かび上がらせてきました。子どもたちの学ぶ権利を保証し、給食の潜在的能力を最大限に発揮できる新たな教育の場の創出を視野に、教育予算と人員を投入し、少人数学級が実現されることが求められます。

以上の趣旨から、下記事項について国と都に対する意見書の提出を求めて陳情いたします。尚、少人数学級実現に向けて次のような主な動きが広まっていることを付け加えます。

萩生田文科相が政府の教育実行再生会議で検討を進めることを確認

小中高校などの校長会会長が文科相に要望

全国知事会、全国市長会、全国町村会が合同で文科相に緊急提言書を提出

大学教授、教育研究者有志メンバーによる署名活動

以上

## 陳情事項

- 1、未来ある子ども達の健やかな成長を支えるために、国や都に対して、小中高校等における少人数学級の早期実現を求める「意見書」を提出してください。